

基礎経済科学研究所 自由大学院

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第886回ゼミ報告] 2024年9月20日号(訂正版)

久しぶりの広島、広島駅前や総合体育館への交差点は広い地下道、まるでシェルターのように。平和公園へ、原爆ドームはなぜか「キレイ」すぎる・・・
9月11日のゼミは、斎藤幸平『マルクス解体』第2部第4章「一元論と自然の非同一性」の第5節「資本の弾力性と環境危機」第6節「良い人新世？」を後藤さんの報告でおこないました。ムーア・オコナー：第1の矛盾：過剰生産恐慌と資本主義システムの不安定化・第2の矛盾：自然の最小生産→供給の危機悪化・労働者解雇・賃金停滞・革命へ。資本は素材的世界の様々な弾力的特性を徹底利用、科学技術を用い、新原材料とエネルギーで生産量・生産性を上昇、自然の弾力性を利用し外部を生み出し、負の社会的費用を中核部から周縁部へと時間的・空間的に転嫁する。一定の自然の限界超え→自然力の質低下・生産物量減少へ。資本蓄積制約から資本の自然へのさらなる技術的介入加速。ムーアの予測はエンゲルスの自然の「復讐」・終末論。資本の驚くべき弾力性を考慮すると、資本主義と地球のどちらが先に崩壊するのか。ある種の人間中心主義が不可欠・環境危機存在を否定。方法論的二元論こそ、人新世における自然の批判理論に不可欠。なお、報告者からはこれまでの章や論点についての感想が数ページに認めている。一元論、二元論、多元論、泉鏡花の夜叉が池。アニミズム的一元論と非デカルト的二元論。討論では、6つの論点を示された。1) オコナーからムーアへ、その予測は終末論的である、2) 資本主義が生きた矛盾を通して発展する、3) ムーアは私的労働・賃労働を乗り越える未来展望ができない、4) 一元論が二元論に比べてエコロジカルな世界観を提供できない、5) 自然は人間の道具主義的な目的に抵抗する、6) 方法論的二元論ことが人新世での自然批判理論に不可欠である。存在論的一元論に対する方法論での二元論。自然は価値を生まない・石油そのものに価値はない。自然の価値と、社会的労働で価値。会場参加は小野さん・川口さん・松村さん・山口さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さん・田中(興)さんの合計8名の参加でした。

* 9月25日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 860 9221 2305 パスコード: 086086

* 9月7・8日に基礎研究大会が広島で行われた。一日目の特別メッセージでは元広島市長・平岡敬さんが講演、「広島がヒロシマでなくなる」という言葉がとても印象的な言葉として会場に響き渡った。

***** ゼミ日程 *****

9月25日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
佐々木『資本論第3巻』第2章3～5節「平均利潤転化」報告:小野さん
10月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『マルクス解体』5章 ユートピア社会主義再来 報告:竹内さん
10月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
佐々木『資本論第3巻』第3章 一般的利潤率傾向的低下 報告者未定
その後 11/13, 11/27, 12/11, 12/25 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso